

## 審査員講評

審査員長：西村 清彦（日本銀行副総裁）  
審査員：數土 文夫（経済同友会副代表幹事、JFEホールディングス相談役）  
安井 肇（あらた監査法人 あらた基礎研究所所長）  
野田 忠男（日本銀行政策委員会審議委員）  
宮尾 龍蔵（日本銀行政策委員会審議委員）

## 総評

日銀グランプリは今回が第6回目の開催です。本年は、全国各地から104通の応募が寄せられました。内容面では、IT技術の進展を踏まえた提言がみられたほか、採り上げるテーマの幅もバラエティに富むなど、全体としてレベルアップしてきていると思います。

特に、決勝に残った皆さんの作品は、わが国の金融に関する課題に関し、問題意識を持ったうえで、実地調査なども踏まえた独自性ある提言に結びつけている点が良かったと思います。また、本日のプレゼンテーションも意欲と工夫がみられ、審査員から厳しい質問を受けても、しっかりと自分たちのチームの主張を展開しており、頼もしく感じました。

一昨年秋以降の世界的な金融危機を受け、多くの国々で金融教育を強化する動きが高まりつつあります。こうした中で、大学生の皆さんが、日銀グランプリをきっかけとして金融の問題について自分たちで深く考えたことは、貴重な経験になると思います。これからも是非金融に関心を持ち続けてほしいと思います。日本銀行では来年度も日銀グランプリを開催する予定です。本日決勝に進出された皆さんの活躍を見て、全国各地で一人でも多くの学生の方々が、若者らしい問題意識、発想に基づき、自ら主体的に考え、自分の足で調べることを通じ、わが国の金融面の課題に挑戦し、提言をしていただきたいと思います。

## 個別の論文について

### 【最優秀賞・特別賞】 麗澤大学チーム 「金融特化型 SNS サイト～『日銀チャンネル』の構築に向けて～」

日本銀行の情報発信ツールとして、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）サイトを利用し、双方向で情報の送受信を行ってはどうかとの提案でした。

SNSに限らずインターネット技術の進展を踏まえて、日本銀行も情報発信ツールを不断に見直すべきとの主張はその通りだと思います。また、ユーザーが疑問に思うことを質問できる電子掲示板機能、専門家が金融経済について説明する動画学習機能、ゲームやシミュレーションを通じてユーザーが金融経済に関する知識・関心を深められる体験型アプリケーション等、具体的な提言が豊富に盛り込まれており、傾聴に値する点も少なくなかったと思います。さらに、日本銀行のホームページの使い勝手などについて学内でアンケートを実施し、その結果に基づいて現状分析を行っている点も高く評価できます。

一方で、双方向のコミュニケーションを前提とし、不特定多数の人々が参加する仕組みにおいて、システムの信頼性・安全性の確保は当然のことながら、公共性・公益性の確保という観点も重要であると思います。この点に関するより具体的かつ詳細な検討があると、提言の現実性と説得性が高まると思います。また、ブログ機能やコミュニティ機能に対しては日本銀行が関与しない仕組みとなっており、そうしたサイトをそもそも日本銀行が管理・運営すべきなのかどうかも論点の一つと思いました。

### 【優秀賞】 広島市立大学チーム 「全世界的な金融教育推進運動の提唱（金融危機の経験を活かして）」

世界各国を、①先進国、②発展途上国、③新興国に分け、各国の経済発展段階等の実情に即した形で金融教育を進めていく、との提案でした。

現在、急速に金融イノベーションが進展する中で、金融に関する様々な問題が全世界的に生じています。こうした問題について、世界的な視野から金融リテラシーの向上を図ることが重要と考え、国の発展段階に応じて金融教育の内容をきめ細かく変える必要があるとの問題意識は的確であったと思います。リーマンショックの教訓や発展途上国・新興国が直面している問題もしっかりと分析されており、それが一連の提言の説得性を高めていたと思います。また、プレゼンテーションも、論旨が明快で、よく整理されていました。外貨建て債券の投資モデルをはじめとする金融教育メニューは、いずれも具体的でわかりやすかったと思います。質問に対する回答もよく準備されたものでした。

一方、サブプライム問題の教訓は、金融教育分野に止まらず、企業金融等の分野にも及ぶと考えられます。そうした点についての言及もあると、提言に厚みが増えると思います。また、例として示されたシミュレーションについては、もう少し現実を考慮した検討が必要ではなかったかと思います。さらに申し上げれば、折角の良いアイデアをどのようにして皆に伝えていくかという点についての検討をより深めていくと実現性が一層高まると思います。

### 【優秀賞】 明治大学チーム

#### 「日本における社会貢献事業型倫理銀行の発展に向けて～オランダの倫理銀行と環境金融優遇制度の成功を範として～」

欧州の倫理銀行と環境向け金融に対する税制優遇措置であるグリーン・ファンド・スキームをモデルに、環境問題等に取り組む企業への融資を行う日本版倫理銀行の設立、優遇税制の導入、日本銀行の成長基盤強化を支援するための資金供給の活用が提案されました。

環境問題の解決に向け、欧州で成功を収めている倫理銀行とグリーン・ファンド・スキームの事例を詳細に調査し、それに基づいて日本における同様のスキームの導入を提言しております。その中で、日本では新たな銀行の設立が難しいという現状を踏まえ、既存の銀行勘定の中に、グリーンバンク勘定を設けるという提言も現実的で良かったと思います。このように全体として着眼点が斬新で、大変興味深く、プレゼンテーションも明快であったと思います。

ただ、欧州ではかなり前から倫理銀行が成功してきている一方で、日本ではどのような点が障害となり、それについてどのような対応策があり得るか、社会貢献を優先する中小零細企業への融資というハイリスクの融資について銀行としてどのようなリスク管理が必要か、また、利子の現物支給という融資スキームを日本においてどのように実現できるか等について、もっと考察を深めると、提言の現実性と説得性が高まるのではないかと感じました。さらに、優遇税制といった公的支援に安易に頼らないスキームの工夫があればなお良かったと思います。

### 【敢闘賞】 東京経済大学チーム

#### 「国境なき医シ団～日本の先進医療を海外へ～」

成長戦略の1つとして、日本の先進医療機器・技術をアジアへ提供するための金融面を含めたスキームの提案でした。

日本経済再生のためには、世界をリードする新産業を創出するとともに、これが成長センターであるアジアの発展にも貢献するものであるべきとの問題意識は時宜にかなったものと言えるでしょう。また、医療機器開発・販売企業へのアンケート調査に基づいて問題点の指摘と提言を行っており、その点も評価したいと思います。

しかしながら、新産業として何故医療分野に注目するのか、医療分野の成長が日本経済にどのようにプラスとなるのかという点についてもう少し説明が欲しかったと思います。また、一口に「アジア」と言っても、今日経済の発展段階や、医療に対するニーズは多様であると考えられます。そうした違いにも着目して提言されると、提言の現実性と説得性も高まるのではないかと感じました。このほか、現地医療機関に資金を融通し機器を購入するだけで需要の掘り起こしに繋がるのかという問題もあります。この点に関連して、患者側の医療費負担を軽減するために医療保険を現地で販売することを提案していますが、保険料が高くなり加入できる人が限定されてしまうのではないかと疑問が残りました。さらに、実現可能なスキームとするために採算性の検証やリスク管理等より詳細な検討が必要ではないかと感じられました。

**【敢闘賞】 東京大学チーム**

**「アイデア応援投資～個人投資家によるベンチャー支援の新たなかたち～」**

個人投資家によるベンチャー支援の新たな形として起業家と投資家を仲介するサイトを設立してはどうか、との提案でした。

まず、ベンチャー企業への個人投資家からの出資を募るため、社会貢献意識が高く、SNSの利用者等情報に対する感度の高い個人層に着眼した点は興味深く感じられました。また、今日、出資を募るためには、情報の共有化と投資単位の小口化が重要なポイントであるという点も的確な指摘だと思います。さらに、具体的なサイトのイメージを提示するなど、今後の実現に向けて取り組んでいく姿勢も感じられました。

一方で、「社会貢献」をやや強調し過ぎている点が、スキーム全体の現実妥当性を低めていないかと感じられました。また、オープンなネットワークの利用に伴い、サイトで流れる情報の信頼性をいかに確保するか、ファンド募集中にアイデアが盗用されてしまうリスクはないかといったサイト運営面における課題について、「システム上の問題点」として一定の検討はなされていますが、本スキーム成功の重要なポイントの1つと思われる。さらに、何故既存のベンチャーキャピタル等の仕組みが十分に機能しないのかという点についてもっと考察を深めると、提言の現実性と説得性が高まるのではないかと思います。このように、全体的に、より突っ込んだ検討が欲しかったところです。

以 上